

第50回ロータリー研究会開催される

この号の内容

- 1 第50回ロータリー研究会
- 2 ロータリー財団地域セミナーが開催される
- 3 「メジャードナー顕彰午餐会」
- 4 ロータリー財団地域セミナー「パネルディスカッション」
- 5 地球に平和を
- 6 プロジェクトフェアへの参加を促す
- 7 ブラジルと日本のクラブによる協力活動
- 8 「おしん」は世界中にいる
- 9 輝く未来を創る
- 10 子規の句と椿



<辰野克彦 RI 理事ロータリー研究会召集者>



【財団地域セミナーが開催される】

晴天に恵まれ12月5日(日)JP タワーホール&カンファレンスに於いて、2021-22 年度財団地域セミナーが登録 180 名の皆様を迎えて開催されました。

20 名以上の方が当日登録され、200 名を超えるご参加を戴きました。ご来賓に 辰野克彦 RI 理事、三木明 TRF 管理委員、公益財団法人ロータリー日本財団理事長 千 玄室様、RI 理事エレクト 佐藤芳郎様をお迎えして開会されました。

大変残念でしたが TRF 副管理委員長のユン・サンクー様が来日できなくなり、ビデオレターでのご参加になりました。コロナ禍で検温・消毒・健康調査票の記入など徹底的な対策を講じての開催に参加者の皆様も安心してセミナーを受講されたと思います。財団の支援者が真剣に学んだセミナーになりました。



<https://youtu.be/qvoovGCAILM> <https://youtu.be/BStQKd5R38>

【ユン・サンクーTRF 副管理委員長の御挨拶】

第50回ロータリー研究会の付随行事として毎年開催されるロータリー財団地域セミナーと翌日開催されるメジャードナー午餐会について少し報告させて頂きます。ご協力を願いました皆様にこのメッセージを通じて御礼申し上げます。このセミナーには、TRF 副管理委員長のユン・サンクー様が来日されるご予定でしたが、入国の際の3日間の隔離などの条件がクリアできず、残念ながらビデオレターによるご参加となりました。このビデオレターを拝見致しますと短時間に収録されたことが窺われ段々にお疲れも出ている筈ですのに、力強くロータリー財団の現在と未来についてご講演を賜りました。私ごとですが、親日家のユン様の思いを感じて胸が熱くなりました。奥様のウンスン様の通訳を、2013年度のロータリー研究会の折、娘のさやかがお手伝いしたことがありましたので、余計に親しく感じていました。今回は基調講演のビデオレターを添付致しますので是非ご覧下さい。(羽部記)



【メジャードナー顕彰午餐会】



＜左から千 玄室理事長、Dr.Max Iimura 様、北清治元 TRF 管理委員、右の写真はメソソプラノ 徳永桃子様＞

12月6日(月)午前オークラ東京2F オーチャードにおいてメジャードナー午餐会が開催されました。地区ごとに記念写真が撮影され、新装されたホテルに200名を超えるメジャードナーの皆様と、アーチ・クランフ・ソサエティーメンバー(25万ドルを寄付された)メンバーの顕彰が行われ三木明 TRF 管理委員から認証状が贈られ、辰野克彦 RI 理事から花束が贈られました。今回はコロナ感染症のに係る入国制限措置により、特別ゲスト RI シェカール・メータ会長ご夫妻、TRF 副管理委員長ユン・サンクーご夫妻がご参加できませんでしたが、E/MGA の皆様の周到的な準備により素晴らしい午餐会となりました。

美味しい中華料理と、徳永洋明(とくながひろあき)様徳子(とおこ) 様ご夫妻のピアノと美声で会場が一段と盛り上がりを見せていました。写真撮影もスムーズに行われ、お食事も予定された時間内に全てを終了して終えることができました。お手伝いの皆様大変お疲れ様でした。(羽部記)



【パネルディスカッション「みんなのロータリー財団」】



寄稿者: 出村 知佳子

国際ロータリー第 2510 地区R財団副委員長

＜モデレーター＞ 第1地域 RRFC 羽部 大仁

＜パネラー＞ 第3地域 2660地区 宮里唯子 ガバナーエレクト
第2地域 2760地区 中村公彦 ARRFC
第1地域 2510地区 出村 知佳子 ロータリー財団副委員長



「みんなのロータリー財団」のテーマのもと、ロータリー財団地域セミナーのパネルディスカッションが行われました。モデレーターの羽部 大仁 RRFC より、ロータリー財団の補助金プログラムの使い方（コロナ禍で WF の含めた変更事項もある中）について、3つの質問がありました。

- ①あなたの地区での補助金の活用とアイデア
- ②あなたの地区のファンドレイジングの事例
- ③EREYについて

その質問を受け、第2地域の中村 公彦 ARRFC からは、2760 地区で取り組んでいる「ロータリー奉仕デー」（ワールドフード＋ふれ愛フェスタ）『ゼロミッション』（コロナゼロ、カーボンゼロ、ポリオゼロ）について、新しい環境分野である「環境」について取り組み、公共イメージの向上にも結び付けている素晴らしい事例が紹介されました。

第3地域・2760 地区 宮里唯子 ガバナーエレクトからは、『グローバル奨学金』選考が厳選して行われ、その後「学友」となった奨学生が、世界中の国際機関で活躍する様子をロータリーアンに広く知って頂く機会を作っていくことで、「グローバル奨学金」、「ロータリー財団」の理解が広がっている嬉しい事例をお聞きすることができました。

第1地域・2510 地区からは、MG や GG 等の申請・事業の実施を通してその素晴らしさを体感し、その理解が自らの寄付推進へ繋がり、それと同じように若手会員が羽部RRFC の「Take Action」を見ていく中でその大切さを強く感じ、「羽部さんが大好きだから、PHSに入会しました」と言った、若手会員のエピソードも紹介されました。

それぞれの個性が表れ、地区、地域の「多様性」が生かされた、楽しいパネルディスカッションとなりました。御参加頂いた皆様に深く感謝申し上げます。

【地球に平和を】



親愛なる Dainin さん

今年も間もなく師走となりますが、この機会に、「みんなの人生を豊かに」しておられる皆さまのご奉仕に感謝を申し上げます。よりよい世界を築き、私たち自身の中でも変化を生み出すロータリーの活動のインパクトは、皆さまのおかげでさらに大きくなります。私たちは皆、異なる文化をもち、異なる方法で祝祭日を祝いますが、「よりよい明日を築く」というビジョンで結びついています。このビジョンが新年にも私たちに平和と幸せをもたらすことを願っております。

皆さまの心と世界中の家族が喜びで満たされますように。

シェカール・メータ

国際ロータリー会長

ジョン F. ジャーム

ロータリー財団管理委員長



【グローバルパートナーシップとロータリーが協力】

【教育のためのグローバルパートナーシップとロータリーが協力】

ロータリーは 2020 年 4 月、教育の向上とジェンダーの公平さを推進する複数のステークホルダーのパートナーシップに基づく国際基金「教育のためのグローバルパートナーシップ」(GPE)と協力関係を結び、以来、各地でインパクトを生み出しています。今年 1 月に開かれたロータリー国際協議会では、GPE のアリス・オルブライト CEO が講演し、次のように述べました。

「私たちは手を取り合い、女兒や貧困地域の子どもたちの生活をよりよくしています。ロータリーは、独自の声をもち、世界を舞台にほぼすべての国で活動しています。皆さんは、その声を使って女兒や子どもたちを守り、リソースの公平な配分を政府のリーダーに呼びかけることができます」

【プロジェクトフェアへの参加を促す】

RRFC の 2021-22 年度目標の一環として、地区と協力してクラブによる補助金への参加を促進する戦略を立てることが求められています。これを達成するための一つのアイデアは、プロジェクトフェアへの参加を地区に奨励することです。

プロジェクトフェアは地区によって各地で開催されており、地元のクラブがパートナー候補に向けて奉仕プロジェクトを紹介する機会、また、海外からの訪問者にとっては、クラブの目標に合ったプロジェクトを見つける機会となります。クラブの代表者のほか、ロータリー会員であれば誰でも参加でき、支援するプロジェクトを見つけることができます。クラブは、グローバル補助金によるプロジェクトだけでなく、あらゆる資金レベルのプロジェクトを展示できます。さまざまなレベルの機会を提示することで、初めて海外パートナーとなるクラブは、小規模なプロジェクトでの協力からスタートし、将来的に大規模なプロジェクトや補助金活動での協力へと発展させていくことができます。

地区は、プロジェクトフェアに参加するために、地区補助金を活用できます。ほかの地区補助金と同様に、DDF(地区財団活動資金)の使用を認める裁量は地区にあります。今年度、多くのプロジェクトフェアはバーチャル形式またはハイブリッド形式での実施が計画されており、これまで以上に簡単に参加できるようになっています。

地区が末永いパートナーシップを築き、国際奉仕プロジェクトに参加する機会を見つける方法として、プロジェクトフェアへの参加を各種コミュニケーションや研修で紹介しましょう。今後開催が予定されているプロジェクトフェアの情報を調べることができます。ご質問は rotary.service@rotary.org にご連絡ください。

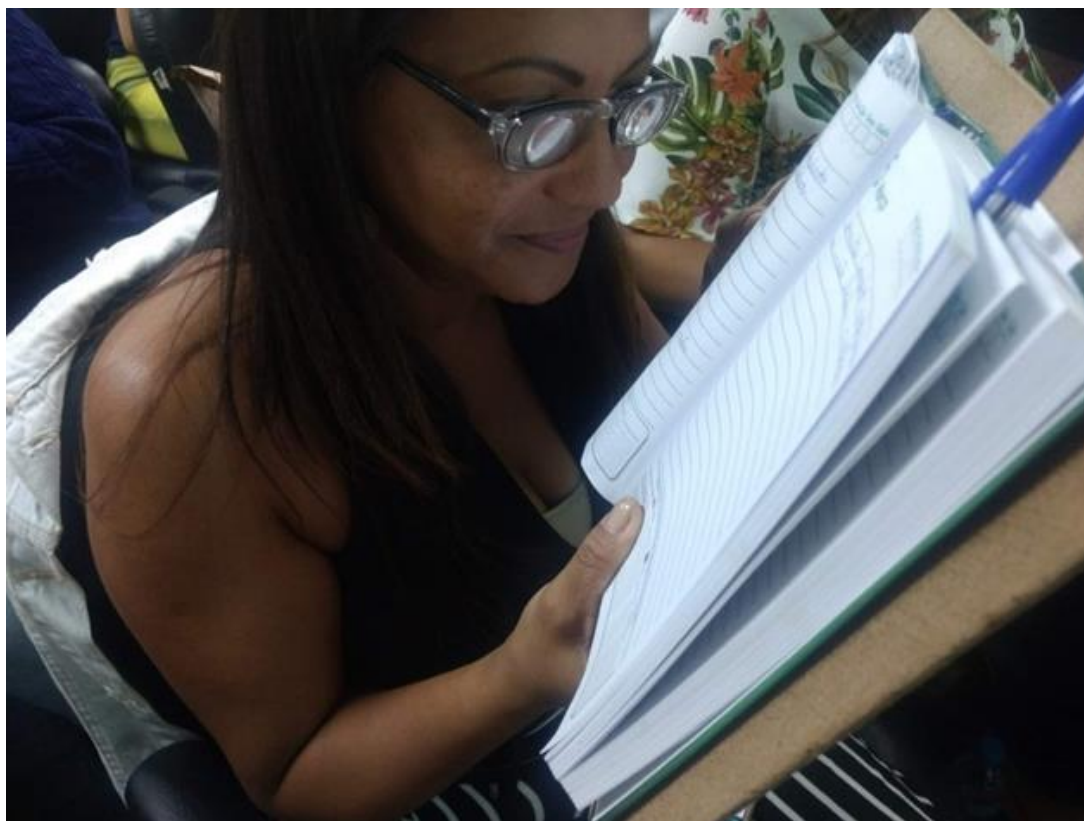


【ブラジルと日本のクラブによる協力活動】

「読者の補助機器の使い方を学ぶ教師」

【視覚障がい者教育のための教師研修: ブラジルと日本のクラブによる協力活動】

視覚障がい者の教育を支援するにしても、そのための訓練を受けた教師がいなければ実現は困難です。そこで、ブラジルのロータリー会員は、専門スキルのある教育者を増やすために、教育支援団体 Dorina Nowill 財団とのパートナーシップを結びました。サンパウロ・リベルタージ・ロータリークラブが、日本の富士宮ロータリークラブの支援を受けて実施したこのプロジェクトでは、2019 年 4 月から 5 月にかけて、169 名の教師が研修を受けました。



【ロータリーの「女兒のエンパワメント」の取り組み】

寄稿者: 山田 邦子
女兒エンパワメントアンバサダー
第 2840 地区パストガバナー



「おしん」は世界中にいる

～ ロータリーの「女児のエンパワメント」の取り組み ～

2021-22 年度国際ロータリー会長のシェカール・メータ氏は、会長肝いりのイニシアチブとして「女児のエンパワメント(Empowering Girls)」を挙げています。その目的は、女児の安全、健康、教育、福祉を向上させることです。なぜ女児のエンパワメントが重要なのでしょうか。

- 家族の健康が改善されます。
- 女児が教育を受けることで、収入が増し、家族が貧困から脱します。
- 女性が男性と同じ就労率で働いた場合 2025 年には世界総生産に 28 兆ドル増加が見込まれます。
- 国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」に、[ジェンダー平等の実現](#)が含まれています。
- 私たちには、女児の権利を守り、福祉を推進し、すべての女児が自身の力で未来を切り開けるようにしていく義務があります。

会長イニシアチブの資料によると次のことが分かります。世界では男児を好む傾向があり、世界人口を見ると女性より1億 4000 万人少なくなっています。南アジアの女児 5 人中に 1 人は重度の低体重に陥っています。HIV 感染女児は 97 万人に上ります。学校ではトイレの衛生管理が欠如しており、女児欠席の原因になっています。児童婚が多く、女性の学歴と収入の向上を妨げています。女児への暴力、虐待、人身売買の被害が絶えません。思春期の妊娠・出産中の合併症が、死亡の主な原因となっています。また、世界の 9 億 6000 万人が非識字者で、その 3 分の 2 が女性です。しかし、現代の日本では、これらの状況を想像することが難しく、コロナ禍により海外交流も減少しており、女児エンパワメント活動の手がかりが掴みづらいのが現状ではないでしょうか。私もアンバサダーとしての役目に焦りを感じております。

身近なところから女児のエンパワメントを考える 「おしん」をご存知でしょうか？1983 年 4 月から 1 年間、テレビ放映された NHK 連続テレビ小説の題名となった女性の名前です。この番組は平均視聴率 52.6%と非常に高く、朝の放映時間中は水道の使用量が激減したと言われています。この番組を子どもたちに見せるために、夏休み中に何度も放送されました。世界 60 以上の国・地域で放映され、シンガポールで 80%、中国北京で 75.9%、イランでは 90%の高視聴率となり、「経済大国の底力」とも評されました。発展途上国を大いに勇気づけたと言われています。おしんの国に憧れて日本留学を決めた米山奨学生もいました。おしんは 1901 年に山形県の山村で生まれました。貧しさによる口減らしで 7 歳で米 1 俵と引き換えに奉公(人身売買)に出されます。少女おしんは、貧困、虐待、いじめ、修行の中で、奉公先の女当主に習字、そろばん、帳簿つけ、生け花、茶の湯、行儀作法の教育を受け、これが後の人生で大きな力となります。関東大震災、第二次世界大戦等で、商売の挫折、大切な人との別れを経験しながら、子ども、養子、養女を育て、魚行商からはじめて 83 歳で 17 店舗のスーパー経営に成功します。まさに、経済大国ジャパニーズドリーム物語です。おしんは、女児エンパワメントの好例です。一人の少女が虐待や人身売買を経験しても、教育やさまざまな修行を受けることで力づけられ、健康な家族を育て、社会経済の発展に貢献できたのです。世界を見ると、現在も「おしん」は沢山います。活動規模の大小を問わず、世界中の「おしん」に力を与えましょう。それによって、きっと「おしん」は家族を健康にし、社会経済を支える力となり、世界の発展に貢献できるようになるでしょう。自分に何ができるかと思う方も多いかと思います。わずかではありますが、ここにクラブでの取り組みを検討できるニーズをご紹介します。

- [コロナ禍における女児保護への認識向上](#): [国連広報センター](#)によると、都市封鎖(ロックダウン)により、女性と女児に対する暴力のリスクが増大しています。
- [教育におけるジェンダー平等の啓発](#): 「男子はわんぱく、女子は優しい」といった偏見が、将来に無給の家事・育児・介護を女性に強いることにつながります。また、理学・工学系での男高女低、家政系での女高男低の違いが生じたりします([令和元年度学校基本調査](#)を参照)。

皆さまのご活動をロータリーショーケースでご紹介ください

クラブで「女児のエンパワメント」につながる活動をされた場合は、[ロータリーショーケース](#)でご紹介ください。掲載される際は、女児のエンパワメントのタグ(Empowering Girls 2021)をご使用ください。皆さまのご協力をどうぞお願いいたします。

【パネルディスカッション「輝く未来を創る」】

【未来を創る奉仕活動～ロータリーの重点分野を考えて】

重点分野に環境が7番目に加わる

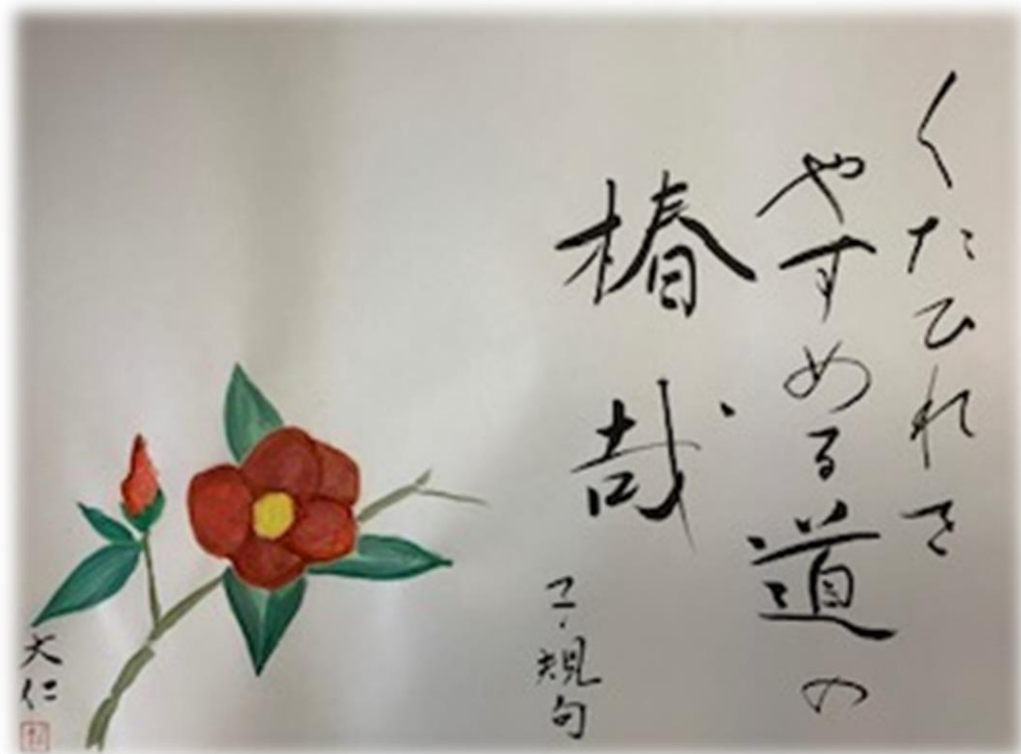
新井和雄 第2820地区ガバナーの「地球環境保全プロジェクト」は11月の第1地域 RRFC 便りにも紹介させて戴きましたが、この記事はロータリーボイスにも掲載されたものです。新井ガバナーの行動力の成せる技と言っても言い過ぎではありません。今回のロータリー研究会の第1日目の話題性を集めた発表になりました。このパネルディスカッションではモデレーターを我々財団チーム第2地域 RRFC 服部良男 PDG が見事に進行されました。このプロジェクトは世界中の30以上の国と3万人を超える人々が参加するものとなりました。心からの敬意を捧げたいと思います。このプロジェクトの成功をシェカール・メータ国際ロータリー会長も賛辞を送っておられます。辰野克彦国際ロータリー理事も「新井ガバナーが地球環境保全プロジェクトを成功に導いた実行力に敬意を表する次第です。本プロジェクトが、今後も続けて行われる事を期待しております。」と述べておられます。この中で、辰野理事はポールハリスの言葉を引いて「大勢の人が多くを語るが、肝心なのはそれを実行する事だ」。

新井ガバナーの提案に賛同してそれぞれの地区で実行されたガバナーの皆さまにもこの誌面を借りて心からの感謝を申し上げます。(羽部記)



環境





【子規の句と椿】

この2年半に亘り、正岡子規の句を多く紹介して来ました。そんなに子規が好きですか？と聞かれても答えようがありません。松尾芭蕉と言えはまた日本を代表する句人であるわけです。比較なども出来る訳ありませんが、生涯に2万首の句を読んだ句人は他におられません。それには人間性のようなものが一つの手掛かりになるように思います。生き様が好きなのだと思います。余り美男子でなく、一休禅師や槇原敬之に何処か似ている感じがします。我々人間はいつも二項対立を起こして良い悪いや好き嫌いを言います。忙しく日を過ごすで自分が見えなくなるとはお釈迦様の教えでもあります。そんな時、ちょっと休んで自身を振り返ることが大切なのだと歌われたのが

「くたひれを やすめる道の 椿哉」

に子規の心だったのかと頷いています。

もう一つ仏教に則ちお釈迦様の教えは、生活と一枚の教えです。そこで仏教は何かと尋ねると、「慈悲」と「智慧」だと教えています。「慈悲」は相手を思いやる心です。

ロータリーでは「超我の奉仕」にはひとまず自分の事は置いて、相手のためになるかどうか？を基本に生きる道とされています。仏壇にお花を備えます。仏様にお供えするのに何故仏様に向けずに私に向けて供えるのでしょうか？それこそが美しい花を見て美しい気持ちとさせて貰うことを意味しています。また「智慧」ですがこれは仏道修行の方法に六波羅蜜を行ずることを教えています。布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧と出てきます。この最後の智慧を人生の生き方(ヒント)を示しています。即ち暗闇で幾ら多くの宝があってもつまずくだけです。この智慧を表すのが燈明です。お光なのです。

疲れたら一休みして椿を見て一服しましょうか。(羽部記)